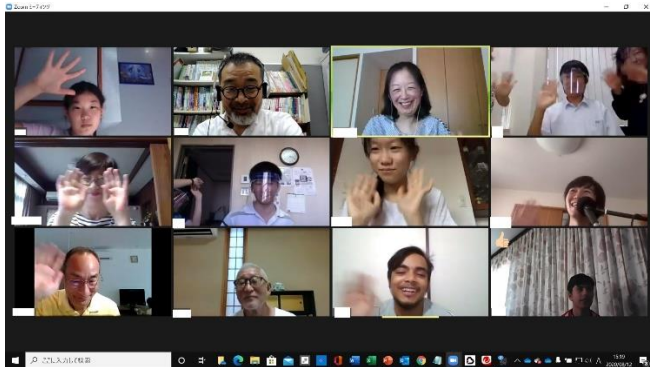




2020年度 勉強に役立つ日本語クラス 報告書



神戸 YWCA 学院
日本語コース

趣旨

近年、日本の公立学校で学ぶ外国にルーツを持つ子どもたち（日本国籍も含む）が増えている。義務教育の現場で日本語が分からない生徒がクラスにいる場合、ただでさえ忙しい教師がさらにその子どもに十分に対応することは、日本語指導の面でもクラス運営でも難しい現状がある。

神戸YWCAは1950年代から約60年にわたり専門学校として日本語教育を行ってきた実績と、効果的な日本語指導のノウハウを持っている。現在は公益財団法人としてより地域に密着し、多文化共生を実現するための活動を進める中で、地域に暮らす子どもたちの日本語支援にも力を注いでいる。

神戸YWCA学院では、外国にルーツを持つ子どもたち支援する「トータル・サポート」というプログラムを、形を変えながら2008年以降、10年以上にわたり行っている。このプログラムは、子どもたちが来日した直後から、日本社会を支える一員として社会人になっていくまで、継続的、且つ、トータル的にサポートすることを目的としている。プログラムは「ことば」を中心にサポートするSTEP1と、「学校生活」を主にサポートするSTEP2と2つのステップからなる。

STEP1では、来日したばかりの子どもたちが、夏休み期間中、短期集中的に基礎的な日本語や教科日本語を学べる「勉強に役立つ日本語クラス」を実施している。また、STEP2では、STEP1で基礎的な日本語力をつけた子どもたちがよりよい学校生活を送るため、毎週土曜日に「はっぴー・さぽーと」「はっぴー・すくーる」というプログラムを実施している。ここで子どもたちは宿題をしたり、進学相談で悩みを相談したり、プログラムの先輩の話の聞いたりしながら、社会へ出ていく準備を行っている。また、季節ごとに開催されるイベントなどに参加し、学習の場としてだけでなく、居場所として神戸YWCAを活用している。

このように、毎年行ってきた本プログラムであるが、子どもたちは神戸市だけでなく、明石市、姫路市、三木市、三田市、養父市などから神戸YWCAに通うこともある。夏休みのSTEP1では、来日間もない子どもが酷暑の中、公共交通機関を使って移動することへの不安がある。それでも、何とか家族の送迎などがあり、参加することができるが、その後は家族の送迎、多額な交通費の負担など、時間的、経済的な問題があり、STEP2に続けて通うことができないケースが多くあった。このことは長年の大きな課題であると考えてきた。また、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、従来の対面式による「トータル・サポート」の実施が難しい状況にあった。

そこで、今年度は新たな試みとして「トータル・サポート」に「オンライン・システム」を導入することで、これらの課題を解決し、支援を必要としている子どもたちにサポートが幅広く、継続的に行きわたるようにしたいと考えた。

「オンライン・システム」の導入については、講師側のオンライン授業に関するスキルと、子どもたちの端末・インターネット環境や操作スキル、安全性の確保といった課題もあったが、神戸YWCAの新たなチャレンジと位置づけ、これらの課題にも取り組んだ。オンライン・クラスは基本的にマンツーマンとし、よりきめ細やかな日本語のサポートを行った。日本語がゼロに近い子どもには、日本語講師のほかこのプログラムの先輩（現役大学生）にも通訳として授業に参加してもらい、サポートをしてもらった。また、対面を希望する子どものために2つの対面式クラスも設

定してプログラムを進めた。

2. 内容

(1) 対象

応募条件は「学校の勉強のために、基礎的な日本語の勉強が必要な 13 歳から 18 歳くらいの外国にルーツのある子ども（日本国籍を持つ子どもも含む）」だったが、小学校高学年の 1 名を含む 9 名。端末・Wifi 環境が整っていない子どもにはパソコンとポケット Wifi の貸し出しも行った。

(2) 日時

2020 年 8 月 3 日（月）～8 月 14 日 全 9 日間（土日・祝日は休み）

※8 月 1 日 インターネット・リテラシー

(3) 学習形態・学習内容

オンライン形式・・・7 名。うち、基礎的な日本語学習は 4 名。高校入試、大学入試に向けた日本語力の向上を目指す学習者は 4 人。

対面形式・・・・・・・・・・2 名。両名とも基礎的な日本語学習。

(4) テキスト

このプログラムでは当初、市販のテキストを使っていたが、プログラムの趣旨に合うものがなく、2013 年度から自主教材を作成し、毎年改定作業を行ってきた。

子どもが対象であること、短期間で集中的に日本語能力を伸ばす必要があることを考えたとき、市販のテキストを使用すると、一つひとつの文法項目を習得するのに時間がかかってしまう。神戸 YWCA のオリジナル教材は、扱う文法項目をコンパクトにまとめており、短期間で効果的に日本語を身につけることができる。改訂作業を重ね、2 年前よりゼロ初級に近いクラス 1 のテキスト、と初級中盤レベルのクラス 2 のテキストを配布している。

また、今年度は高校入試、大学入試に向けた日本語力の向上を目指す 4 人については、漢字、読解、作文、小論文など個別の課題に合った教材を担当講師が作成した。

(5) インターネット・リテラシー

8 月 1 日、プログラム開始にさきがけ、インターネットの安全性に関するリテラシーの時間を取った。インターネットの便利な点と、個人情報やパスワードの大切さなどを、やさしい日本語で子どもたちに説明。子どもたちはインターネットの正しい使い方を身につけ、プログラムに臨むことができた。



(6) オンライン・イベント

8月12日にオンライン・イベントを実施、6人の子どもと、1人の大学生（当プログラム先輩）、日本人7人（神戸YWCAのボランティア養成講座修了者、トータル・サポートのSTEP2で指導を行う講師）の計14人がオンラインでつながった。自己紹介、クイズやゲームなどを通じ日本語を使用し日本人とコミュニケーションを図った。日本語を使ったこの活動は夏休み以降、それぞれの学校に戻ったあとも、きっと彼らに自信を与えてくれるものとなるだろう。



(7) トータル・サポートSTEP2 “はっぴー・すくーる” “はっぴー・さぽーと”

STEP1の「勉強に役立つ日本語クラス」が終了した後も継続的なプログラムを実施することで子どもたちがのびのびと自分らしくいることができる環境づくりを行っている。毎年対面形式で9月から実施しているプログラムであるが、今年度はコロナ禍ということもあり、オンラインによるイベント、教科学習を計画している。

(8) 授業見学会・修了式 地域とのつながり

毎年行ってきた「授業見学会・修了式」と「地域とのつながり」（近隣の二宮地区、若菜地区の夏祭りへの参加など）であるが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、実施が困難であった。子どもたちにとって、日本語を使ったコミュニケーションの場になるだけでなく、日本文化も知る機会となる。一日も早い新型コロナウイルス感染症感染拡大の収束を願う。

(9) 成果と課題

酷暑の中の移動がなくなったこと、また、新型コロナウイルス感染症への心配がなくなったことで、子どもたちは勉強に集中して取り組むことができた。また、神戸YWCAに通うための交通費の負担も軽減された。

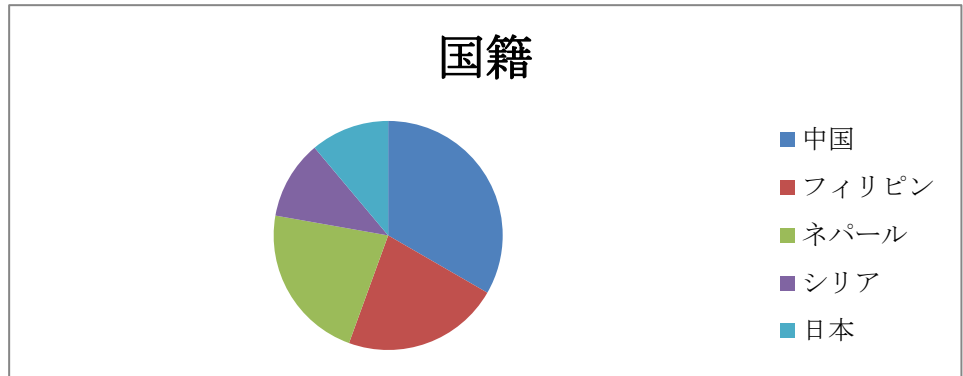
「オンライン形式」と「対面形式」の違いによる日本語力の伸びについては、プログラム終了後のミーティングの際、講師からは一様に「そんなに大きな差異はなかった」との報告があった。マンツーマン形式による授業の実現により、子ども一人ひとりの課題によりきめやかに対応できたことがその要因であると考えられる。

課題としては、端末、Wifi環境が整っていない子どもたちにとって、オンライン形式の授業への参加が難しい点である。このことについては寄付金、新たな助成基金プログラムなどでその予算の確保が必要である。

3. 参加者の国籍等について

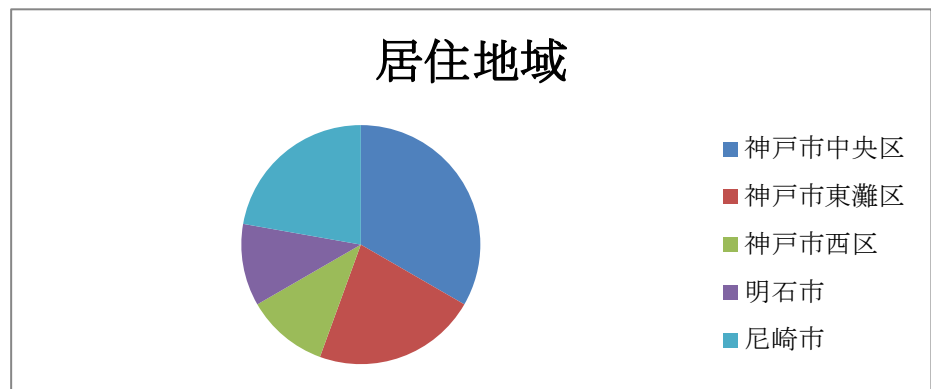
(1) 国籍

中国 3人
フィリピン 2人
ネパール 2人
シリア 1人
日本 1人



(2) 居住地

神戸市中央区 3人
神戸市東灘区 2人
神戸西区 1人
明石市 1人
尼崎市 2人



全9人

(3) 学習者の集め方

- 地域のボランティア教室からの紹介
- 保護者からの申し込み
- 昨年度の子ども対象プログラム参加者への呼びかけによる

4. 実績

(1) 出席状況

出席率 98%

(2) プレイスメントテストについて

毎年事前にプレイスメントテストを行っているが、今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面での試験を避けたため、全体でのプレイスメントテストは行わなかった。対面クラスの二人のみ、実力を測るため、個別に、簡単な試験を行った。

(3) 学習者の声

普段話している日本語が丁寧でないことに気がついた。

作文が書けて自信が
ついた。

オンラインで少し不安もあったけど、中国人の先輩も授業に参加し、サポートしてくれたので、大丈夫だった。



(4) 先輩の進学先

神戸YWCA 学院日本語コースのレギュラーコース等を経て...

県立国際高校

県立東灘高校

徳島大学

県立神戸甲北高校

龍谷大学

甲南大学

県立西宮香風高校

県立芦屋国際中等学校

立命館大学

県立尼崎工業高校

県立芦屋高校

神戸大学工学部

県立舞子高校

兵庫県立大

大阪大学 ほか

5. 後援・協力団体等

(1) 後援

神戸市教育委員会 兵庫県教育委員会

(2) 助成

令和2年度次世代育成特別助成事業（兵庫県青少年本部）



(3) 寄付

◇寄付者名（個人）

山崎恵 ピキ ジェロナ シュニア 西岡美幸 岡山直道 清水威秀 横野美紀子 西村幸枝
茶本卓子 港あすか 手島千景 竹内洋子 川関敏恵 玉岡昇治 三浦啓子 川辺比呂子
尾崎淳子 高森正雄 井上みち子 山本容子 森下万智子 速水靖子 井口幸治 湯浅美樹
有馬京子 匿名（2人）

2020.9.30 現在

(4) 主な経費について

○講師給・謝金

日本語講師給与。日本語指導のスキルを持つプロフェッショナルな日本語教師が、クラスを担当した。また、このクラスで使用する神戸 YWCA が独自に開発したオリジナル教材の作成及び教材改訂作業を行った。

チューターに対する謝金。神戸 YWCA の子どものプログラムに過去に参加し、現在大学生となった先輩が、チューターとして参加した。日本語でオンライン授業への対応が難しい子どもに対して、母語でサポートを行った。

○オンラインプログラムのための設備に関する経費

wifi 環境の整っていない子どもに、wifi を用意するための wifi のレンタル費用。オンライン会議システムを利用したオンラインプログラムのためのオンライン会議システムの使用料。

お問い合わせ

神戸 YWCA 学院 日本語コース

〒651-0093 神戸市中央区二宮町 1-12-10
tel. 078-231-6303 fax. 078-231-6692

e-mail: office@kobe.ywca.or.jp
www.kobe.ywca.or.jp

YWCA

(ワイ・ダブリュー・シー・エー
Young Women's Christian Association) は…

キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際 NGO です。